

第3章 将来都市像

1 まちづくりの目標

第2章で示した現況と課題を踏まえ、産業拠点として活力のあるまちの環境の整備、より安全で快適に暮らせるまちづくり、鶴見川や京浜臨海部の水辺を生かした魅力づくりを進めていくため、鶴見区では次の目標の実現を目指します。

活力があり 安心して住める 水辺があるまち

また、まちづくりの体系をわかりやすく示すため、次の6つの視点からまちづくりの目標を定め、分野を横断した視点を持ちながら、それぞれの視点に応じた方策を検討します。

(1) 土地利用：まちの特性を生かし住環境と商業工業が共存するまちづくり

丘のまち、川のまち、海のまちのそれぞれの特性を生かしたまちづくりを進めます。また、大規模な土地利用転換がされる場合は周辺との共存を図ります。

(2) 都市交通：安全・快適に移動できる交通基盤づくり

安全・快適に移動できるまちの整備、暮らしや産業活動を支える道路網の整備等の交通基盤づくりを進めます。

(3) 都市環境：鶴見川を生かし緑を創出するまちづくり

区内の貴重な緑を保全・充実させ、鶴見川沿いは市民の憩いの場や活動の拠点として生物多様性豊かな水辺環境整備を進めます。

(4) 都市の魅力：歴史・景観・文化を生かした魅力づくり

区内の歴史資源の活用、緑地空間や川沿いの水辺空間、多様な文化が共生する魅力あるまちづくりを進めます。

(5) 都市活力：産業基盤の強化とコミュニティづくり

京浜臨海部においては、技術・経営の革新を進め産業拠点としての活性化を図ります。また、住まいと共存し、様々なサービスも提供する働く場づくり、まちを活性化する産業空間づくりを進めます。

(6) 都市防災：安全・安心の住まいや環境づくり

地震や津波、風水害など自然災害に強く、安心して住み続けられる安全な住まいや環境づくりを進めます。

2 将来の都市構造

将来の都市構造は、まちづくりの目標を踏まえた鶴見区が将来目指すべきまちの姿を概念的に示したものです。鶴見区プランでは、「丘のまち」、「川のまち」、「海のまち」という地域の特性を基盤として、駅周辺の主要な生活拠点となる「鶴見駅周辺」、人々の移動や産業活動を支える「交通網」、地域の豊かな暮らしや防災上重要な「鶴見川環境軸」、近隣市区とともに首都圏の競争力強化に資する「広域連携」、京浜臨海部再編整備における主要な拠点の形成に資する「鶴見・末広軸、生麦・大黒軸」により、都市構造を示します。(図 3-1)

(1) 「丘のまち」、「川のまち」、「海のまち」 3つの地域の特性を生かしたまちの環境形成

丘のまちでは、住宅地としての土地利用を基本としながら、農景観を残す地区、歴史的資源の周辺や大規模公園など自然豊かな地区を核として、緑豊かな住環境の維持・向上を図ります。

川のまちでは、交通利便性の高さや鶴見川の環境を生かしながら、商業、業務、住宅など多様な機能が共存するまちづくりを進めます。

海のまちでは、多様な人・もの・地域をつなげ、新たな価値を創造・発信する産業空間としての環境整備を図るとともに、研究開発機能や、インダストリアルエンターテイメントの機能、区民、在勤者及び来街者の憩いの場が一体となった、国際貿易港横浜の役割の一翼を担うエリアとして、再編整備を進めます。

(2) 「駅周辺の主要な生活拠点」 鶴見駅周辺地区の機能整備

鶴見駅周辺は、駅周辺の主要な生活拠点として、子育てや福祉・医療等を含む公共公益、商業、業務、文化、都市型住宅など多様な機能が複合し、利便性が備わった、いわば“区の顔”としてのまちづくりを進めます。



鶴見駅東口

(3) 「駅周辺の生活拠点」 身近な駅周辺の環境づくり

身近な駅周辺は、買物や交流など機能の立地や、住宅地と駅をつなぐ移動の利便性の向上などにより、日常の生活を支える拠点としての環境づくりを進めます。

(4)「交通網」 交通網の利便性・円滑性の向上

地域相互の移動のしやすさを確保する幹線道路網等の整備と、バスや鉄道など地域環境に合わせた公共交通の維持・改善により交通網の利便性を向上します。

(5)「鶴見川環境軸」 鶴見川に沿った環境軸の機能強化

鶴見川と川沿いにおいては、不足する緑を補い、自然や水と緑の環境に親しむレクリエーションの場となるとともに、災害時の避難路や緊急物資の輸送等にも活用されるオープンスペースとして、必要な機能の強化を図ります。



鶴見川防災船着き場



大曲広場

(6)「広域連携」 広域連携を踏まえた都市構造形成

羽田空港の国際化に伴う首都圏の国際競争力強化に資する各種の基盤整備や、都市型災害への対策強化などを、隣接する川崎市をはじめとした周辺市区の関係機関との適切な役割分担と連携により推進し、持続可能な都市構造を形成します。

(7)「鶴見・末広軸、生麦・大黒軸」 区を中心と海のまちを結ぶ軸として整備

丘のまちや川のまちと、海のまちの各地域との相互の連携を強化することによって、区全体の活力を維持・向上することを目指します。

このため、「鶴見・末広軸」及び「生麦・大黒軸」を、区を中心と海のまちを結ぶ軸と捉え、交通網の強化や沿道の市街地の整備を進めることで、鶴見駅周辺の主要な生活拠点と京浜臨海部との連携を強化します。

(8)「地域施設」(活動拠点) 区民利用施設の活用

区民の文化活動の活性化を図り、地域における交流を促進するため、区民利用施設のほか、民間施設の地域交流スペースなども効果的に活用します。あわせて区民のスポーツ活動を促進し、区民の体力向上や、地域交流に資する取組を進め、身近な場所でスポーツに親しむ場づくりを進めます。

図 3-1 将来都市構造図

